

令和4年度亀岡市支えあいまちづくり協働支援金 交付決定事業概要一覧

NO	申請団体名	代表者名	申請事業名	実施対象	実施期間	設定課題(地域課題)	事業内容	目標	総事業費(円)	交付決定額(円)
スタート事業										
1	かめたんレザミtetote	代表 川水 有衣	ママの輪プロジェクト	亀岡市・南丹市	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	出産・育児中の孤独を感じている母親が多く、出産育児期を過ごすイメージがつきにくい市であるということ。若い世代をはじめとする全体の人口減少も課題として存在する。 また、出産後に亀岡市に転入してきた母親たちは、地域でどのようなイベントが開催されているか情報量が少なくさらに孤独を感じている。そのため、ベッタウンとしては移住者が増えたとしても、昼夜間人口比率が2015年時点で86%と小さく、日中の街の賑わいに欠ける。 自然が豊かであり、子育てをしたいと思える要素もあるが、母親達の楽しさが少なく、地域への興味関心が薄れつつある。	・子育て中の母親の孤独な育児の現状に対し、子育て世帯にフォーカスを当てたイベントやマルシェを開催し、母親達の居場所を作る。 ・1～2ヶ月に一度のイベント開催、また各町10名の会員を目標し、地域のママ達との窓口となる。 ・子育ての情報誌を年2回発行(子育てイベントの案内やママの生活をサポートする情報)。地域の企業からの広告掲載も5社を目標に募り、育児支援をしたい企業との繋がれる情報誌を作成。市内の事業所や子育て関連施設で配布。 ・孤立した育児から母親たちを救い出すために、亀岡市だけではなく南丹市・京丹波町とも連携したイベントを企画。	① 実施目標数値 子育て関連イベントを9回開催。 参加者目標： ベビーシャワー(赤ちゃんグッズづくり、交流会)/各回10組×2回(計20組) ハーフバースデー&1歳バースデー(交流イベント、赤ちゃんに関する勉強会/各回10組×3回(計30組)) 大型イベント/各回50名×4回(計200名)。 子育て地域情報誌を年2回発行(計2000部) ② 事業による変化・成果目標 活気ある働くママ達の姿を見せることで、ママ達に勇気を与える。イベントを通して、孤独を感じている母親達に居場所となり安らぎと活力を与える。 イベントを通じて参加者に企業・行政に興味関心を持っていただき繋がることで、まだ馴染めていないママ達の亀岡市での暮らしの情報源となり得る存在となる。 子育てイベントが多数開催される都市として、市外からの関心を高め、昼間人口の増加を見込むことができる。	377,000	200,000
2	SYK重利夢工房	代表 宇川 賢人	学生ボランティアによる癒しの森づくり	曾我部町重利山下エリア、周辺地域住民(先端科学大学の学生を含む)	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	里山の安全と自然保護の目的で2016年より活動してきた「重利の山を守る会」という団体が会員の高齢化に伴い、活動の継続が難しい状況になった。これまで続けてきた山の手入れを怠ると、整備してきた山がすぐに荒廃した山林に変化してしまい、大雨や台風が来た時に倒木や土砂災害が起こり、住宅地に危険が及んでしまう。 また、重利の地域の少子高齢化も課題となっている。	会員と地域住民、若い世代の協働で地域の課題に取り組む (1) 地域住民や会員との親睦を図り協働でツリーハウスづくりを進める (2) 環境整備のため月1回のペースで山に入り間伐、草刈、清掃等を進める (3) 「SYK重利夢工房」の活動内容を多くの人に理解してもらうためイベントを開催	① 実施目標数値 山の整備 年8回 参加者毎回10名(会員5人会員以外5人) 木工教室参加者 親子30組 子育てグループ【リラハビ】の森の観察会を協力して行う 会員・学生向けのチェンソー講習会 年2回、参加者毎回10名 ② 事業による変化・成果目標 ・ツリーハウスづくりを通して、会員と地域住民、若い世代の交流を行い、事業に関わる人達の関係を深める。 また、若い世代が自然や山について学び、工具の使用方法を身に付けられる。 ・山の整備を通して、自然や山についての知識を深める ・イベントを通して、会員数を5名増やす。 ・防災のイベントを通して、地域住民に現在の山の状態を知ってもらい、団体の事業内容に理解してもらう	262,000	200,000
3	Team DO IT!!!	代表 岡本 祐一	ムラサキガーデンプロジェクト	亀岡市民、周辺市町村住民、Jリーグ来訪者	令和4年6月1日～ 令和5年3月31日	亀岡市の人口は微減傾向が続き、その背景には市民に「何もない地元」という意識があり、郷里に愛着や誇りを持つて何かがなかった。2020年に完成した亀岡市の新たなランドマークともいえるサンガスタジアムby Kyoceraも、京都サンガF.C.がJ1リーグに昇格し、注目度が上がってはいるが、まだまだ「市民の誇り」という施設にはなっていない。誇れる施設となるには、市民がこのスタジアムを愛して、未来には多くの市民がこのスタジアムを支えていく風土が必要である。	旧スタジアム建設用地を活用して、ムラサキ色のチューリップアートを作成。2023年の春の開花に向けて、アート作成、整地、草刈り、植え付けなどをワークショップとしてイベント開催。 他事業にて同地で栽培するムラサキイモのイベントを行ったり、コスモスを植栽してお花を咲かせたり、サッカー観戦「だけ」ではない、亀岡の素晴らしいさを、ムラサキ色を通じてアピールしていく。	① 実施目標数値 イベント4回 各参加者 15～20名程度 イベント以外の有志による畑整備 5回(草刈り、すき込みなど) ② 事業による変化・成果目標 当面使途のない土地の活用で賑わいを創出。 ムラサキ色を通じてJリーグ来訪者の方にも亀岡の魅力をアピール、その方達が間接的に情報拡散を担う。 イベント参加者がゆるやかなつながりで交流でき、さまざまな方向のつながりから、新たなまちづくりへの展開がうまれていく。	240,000	200,000
4	平の沢トレイル	会長 中川 俊和	池尻区 遊歩道の裏山整備	亀岡市内全住民	令和4年4月2日～ 令和5年3月31日	平の沢公園は、京の3沢(大沢の池、広沢の池、平の沢の池)の一つである平の沢池を中心とした公園であるが、20数年前に「水鳥の道」として整備がなされたが、それ以降はほぼ自然のまま放置されている。 益々進む高齢化現象で地元でも1/3弱の後継者がいない現状であり、いても近隣の町に家を購入している現状から空家が懸念されている。 市民に長く楽しんでもらえるように、池尻区裏山の手入れを今行なっておかないと、次世代への橋渡しが出来なくなると危惧している。	池尻区東畑団地で利用されていない農地を活用して、腐葉土作りの体験場所に見学者の参加を求めて開催する。講師は普及所、JA営農指導員もしくは詳しい住民とし、地域の野菜作りで苦労されている方なども含めて参加呼びかけ交流の機会を創出する。遊歩道において亀岡市報に掲載して貰えるように充実された散策道を楽しんで頂けるマップの完成を行ない、関係機関に設置頂けるように展開する。	① 実施目標数値(事業の回数や参加者数など) ・地域内の情報発信 平の沢公園の見所などを地域の媒体(チラシ等)に乗せていく。4回 ・茶話会の開催合計4回(参加人数合計30名)目標、 ・遊歩道散策を合計4回の開催(参加人数合計150名)目標。 ・町内ボランティア登録者数 2名増員 ・草刈作業(散策道・平の沢池川東線法面)年5回実施する。(5月、6月、7月、8月、9月) ② 事業による変化・成果目標 ・茶話会の開催計画、遊歩道散策に来られる亀岡市民の増加。 ・馬路町内の川東保育所・川東学園・南丹高校等に野外授業として年間計画に入れてもらう。 ・草刈作業を定期的な実施することで、散策道の安全と景観を維持できる。	245,000	200,000

令和4年度亀岡市支えあいまちづくり協働支援金 交付決定事業概要一覧

NO	申請団体名	代表者名	申請事業名	実施対象	実施期間	設定課題(地域課題)	事業内容	目標	総事業費(円)	交付決定額(円)
ステップアップ事業										
5	AngelSmile21	代表 服部 貴博	障がい児・者と健常者の交流を深め社会生活への自立を支援する場づくり	亀岡市内全域	令和4年4月1日～令和5年3月31日	障がい児・者が社会生活できるように健常者との交流を深めながら各種イベントや勉強会を実施できる環境や場が必要である。	①専門家による勉強会および相談会 ②保護者交流会および相談会 ③健常者との農業体験等を通じた交流 ④行政・教育関係者や関係機関との意見交換会	①実施目標数値 ・勉強会・交流会・イベント 年5回 参加目標25人×5回 ・管内産婦人科への会の活動周知 15ヶ所 ・賛助会員への加入促進 5企業 ②事業による変化・成果目標 ・新規入会者・事業参加者増加による交流の拡大 ・他団体との繋がりの強化による、サポート機能の強化 ・健常者が交流により障がいへの理解を深めることにより障がい者が日常生活を送りやすくなる。	265,000	198,000
6	子育てサークルリラハビ	代表 石村 朝子	リラハビルーム、リラハビ体験	亀岡市内の小中学生とその親	令和4年4月1日～令和5年3月31日	亀岡市には現在小中学生の親子向けの子育てサークルがなく、子の不登校や発達の問題の悩みを、学校や病院や行政だけでなく、もっと気軽に同じ子育て中の目線で話ができる場がない。 亀岡市内でもかなりの数の児童やその親が不登校や発達の問題で困りごとを抱えている。 コロナ禍で保護者同士の繋がりがりや学校外での子供同士の繋がりが減っていて、孤立しママ友が欲しくてもなかなか出来辛い状況にある。	・リラハビルーム…小中学生の子を持つ親が気軽にお悩みや困りごとを話し合ったり、孤独感や不安感を持つ親が交流する居場所作りをする。 ・リラハビ体験…親子で様々な体験活動をする中で、改めて我が子のすてきなところを発見出来、親子の絆作りができるようなイベントを企画開催。	① 実施目標数値 リラハビルームは年間約40回開催。延べ参加者100人目標。(R3年度は38人/年) リラハビ体験は年間約10回開催。延べ参加者100人目標。(R3年度は64人/年) ② 事業による変化・成果目標 不登校や発達の問題、その他の子育ての悩みで苦しんでいる親子の心が楽になり、親子共々心身共に健やかになる。そしてお互いの交流の中で仲間が出来ていき、学校、家庭、地域が連携して、みんなで子供を育てていく社会の構築を目指す。	991,820	200,000
7	くらしゴトLabo	代表 多胡 麻衣	コンポストで地域と資源の循環計画	コンポスト講座: 亀岡市民 夏休み親子コンポスト教室:亀岡市内在住小学生親子	令和4年6月1日～令和5年3月31日	家庭から出る生ごみのほとんどが焼却処分されるが、水分約80%で燃えにくく、焼却には1トンあたり760リットルの助燃剤(重油)が使用されている。日本全体で6000億円のコストがかけられており、エネルギー効率が悪く環境負荷が高いという問題を抱えている。 地域のつながりが少しずつ希薄になり自治会、子供会、PTAなども縮小傾向が見られる。自分の暮らしを大切にしながらも地域に緩やかにつながる仕組みづくりが必要である。	昨年に引き続き、保津川の筏流しで使われた木材を活用したHOZUキエーロを製作・モニタリングしていく。 モニタリング参加者はLINEのオープンチャット機能でわからないことやアイデアなどをみんなで共有できるようにすることでコンポストに対する不安軽減とゆる〜い横のつながりを作っていく。 夏休み親子コンポスト教室でもブランターで作る「HOZUキエーロpot」を活用、夏休みだけでなくそれ以降もモニタリングしていくようにする。 冬場は分解能力が落ちるので、その頃に冬の乗り切り方講座を開催。虫が湧きにくい季節にチャレンジしやすい段ボールコンポストのWSも併せて開催。	① 実施目標数値 ・夏休み親子コンポスト教室:参加者10組 ・コンポスト講座&キエーロ作り:参加者10組 ・モニタリング調査:20家庭 ② 事業による変化・成果目標 コンポストについての理解と、その先の循環生活や環境問題、地域づくりについて興味を持ってもらうこと。 コンポストをする人たちが気軽に相談、アドバイスを受けられ、さらに新しいアイデアを共有しあえるツールを構築していくこと(くらしゴトコンポスト部) モニタリング調査によって、実際亀岡で暮らす人たちが使いやすいと思うコンポストはどんなものなのか?実情に沿って集める。	370,000	200,000
8	赤熊:この先四年楽しく暮らそう会	会長 日下部 健	音羽川渓流と半国登山道に係る環境整備事業	東本梅町住民及び他住民	令和4年4月1日～令和5年3月31日	地域の超少子高齢化が進み、コロナ禍で住民の外出の機会が減り、身近に世代間でのかかわりを持つことが薄くなってきており、東本梅町の豊かな自然をみんなで見る機会が減っている。 雑木が茂り登山道から音羽川渓流が見えにくくなっている。 登山道も分かれ道があるので、登山者が戸惑う可能性や各所ポイントを見逃して通過してしまう可能性がある。	多くの登山者が登山される半国山登山ルートが荒れているので、雑木や枯れ木撤去を地域住民と地域外住民から参加者を募りハイキングや散歩をしやすい登山道を整備する。 整備したルートを各個人のペースで森林浴やハイキングをしよう。	①実施目標数値 登山道整備月1回 地域住民10名、地域外参加者3名 登山(目的地は各参加者ごと) 年1回 地域住民20名 地域外参加者10名 ②事業による変化・成果目標 山の神から音羽の麓まで高齢者でも自分のペースで歩行ができ、景色を眺めてハイキングや散歩ができる。 他地域からの音羽川渓流を眺めながら半国山への登山者の増加 交流のなかった住民同士が顔見知りになる	182,500	133,000
9	かめおか遊友ネットワーク	会長 田中 英夫	高齢者と学生のエンパワーメントと社会参加促進事業	亀岡市全体	令和4年4月1日～令和5年3月31日	コロナ禍での高齢者の外出機会の減少が即体力低下につながっている。 高齢者の外出促進事業を行う、新たな地域のリーダーとなる人材が不足している。	レクリエーションの専門スキルを持った講師が学生や市民を対象にした学習会を月1回程度開催。 新たな地域リーダーを発掘するためのサポーター養成講座を年2回実施。 高齢者を対象にSNSコミュニケーションのスキルアップと安全な携帯の使い方やマナーの講座を3回程度実施する。	① 実施目標数値 事業実施23回、延べ参加者数3,000人以上 ② 事業による変化・成果目標 新たなサポーターの増加20人 リーダーのエンパワーメント目標60人 一般参加者数3,000人以上	340,000	200,000

市民連携事業

10	特定非営利活動法人プロジェクト保津川 (連携先:くらしゴトLabo、川と海つながり共創プロジェクト)	代表理事 原田 禎夫	みんなでつくる環境フェスティバル	亀岡市内 亀岡市民	令和4年4月1日～令和5年3月31日	使い捨てプラスチックごみ削減の取組は進められているが依然としてレジ袋以外の使い捨てプラスチックの削減や廃棄物全般の削減は課題であり、ライフスタイルの根本的な転換が求められている。環境に対する市民意識の向上をはかり、どんな取り組みを進めていくのかを多様な市民参加のもと考えていく必要がある。	2回の環境フェスティバルを実施する。 1回目は連携団体と共に中心となって事業を進め、2回目は1回目に参加した市民、特に高校生や大学生などの若者による企画を中心に実施し、環境問題に取り組む次世代の育成も行う。	① 実施目標数値 環境フェスティバル1への参加者 200名 環境フェスティバル2への参加者 200名 ② 事業による変化・成果目標 「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」の趣旨が広く市民に浸透する。 生ごみの堆肥化に対する理解が進み、生ごみの焼却処分量が減少する。 ペイントイベントを通じてごみ収集事業への理解が深まり、家庭レベルでのごみの分別や削減の取り組みが一層進み、亀岡版ゼロエミッション計画の達成に貢献する。 使い捨てプラスチックの発生抑制に向けた市民の自発的な取り組みが広く行われるようになり、2030年までの使い捨てプラスチックごみゼロを実現する。	1,074,800	400,000
----	---	---------------	------------------	--------------	--------------------	--	--	--	-----------	---------